



笹賀の世帯数・人口
世帯数 4,494 世帯
人口 11,339 人
男 5,714 人
女 5,625 人
(平成 26.9.1 現在)

わらべ歌で親子のふれあい 絵本がつなぐ親子の絆

7月23日、福祉ひろばで「子どもと本の集い」特別企画「親子であそぼう！絵本とわらべうた」が開催されました。

当日は親子14組、計32人が参加して和気あいあいとした雰囲気の中で、伝承遊びのわらべ歌と、絵本の読み聞かせを楽しみました。わらべ歌にあわせて親子で手遊びをする



みんなで手遊び

と会場には自然と笑顔があふれていました。講師の伊藤深雪さんは、元保育士。現在は、松本おはなしの会の会員で、小学校、幼稚園、保育園、病院などに出向いて、長年、おはなしを届ける活動に携わっています。



講師による読み聞かせ



手遊びで親子のふれあい

子どもを抱っこして会に参加したお母さんは「子どもへの絵本の選び方の参考になった」「子どもが笑顔になつて楽しかった」などと、感想を話していました。

主催の豊嶋さんは、「わらべ歌は、なくしてはならない大切な日本の文化。これをきっかけに、子育ての中でぜひ生かしてほしい」と話していました。

「子どもと本の集い」は、地域の子育て支援・親子の居場所づくりを目的に、すぐのつくる代表の豊嶋さおりさんが主宰し、平成18年6月より毎月1回開催されてきました。子どもの本を介して子育て支援を行っており、絵本の読み聞かせだけでなく、季節の絵本の紹介や工作など様々な企画が行われています。ま



毎月様々な企画を実施

た、会の終わりには、お茶会も開かれ、お母さん同士の交流の場にもなっています。

絵本の読み聞かせには子どもへの心の成長や想像力の増進に効果があると言われていたり、ほか、親子のふれあいにもなります。「子どもと本の集い」では、今後も様々な企画を実施して、子どもと親、その周りの大人たちを本を通して繋げていけるような活動を続けていきたいという事です。



松本を歩こう！

芸術館&美術館&湧水巡りウォーキング

8月21日に笹賀公民館主催の「芸術館&美術館&湧水巡り」が開催されました。当日は源地水源地をはじめ、市街地にある湧水をウォーキングでまわるとともに、松本市民芸術館、松本市美術館の見学を行いました。

数々の湧水を巡り参加者からは「近くにあるのに今まで知らなかった。松本の良さを改めて知ることができた」という声が聞けました。

また、芸術館や美術館の見学もあり、芸術館では、サイトウ・キネン・フェスティバルの期間中でオーケストラピットなど、普段見れない部分を見ることができました。

近くにあるけれど、あまり知らない松本の魅力を知ることができた1日でした。



源地水源地

苔の神秘にふれた観察会

8月9日(土) 公民館主催の自然観察会が行われ、北八ヶ岳白駒池の針葉樹の原生林に広がる苔の楽園を訪ねました。

「日本の貴重なコケの森」に認定されている白駒池周辺の「苔の森」では、約500種類の苔が確認されているそうです。インスタラクターである青苔荘の山浦清さんから、代表的な苔の特徴や生態などをレクチャーしていただきました。「苔はルーペを使っ



苔を観察

てじっくり覗いたり、時には触ってみてください」といわれ、ルーペを覗いて胞子の様子を観察したり、おそろおそろ手を触れて、その柔らかさに驚いている参加者の姿が印象的でした。



地面にひろがる苔

台風11号が近づいており、今にも降り出しそうな曇り空



ルーペでじっくり観察

でしたが、参加者19名で、池を周る1・8kmの周回コースを歩き、原生林と苔の素晴らしさを堪能しました。

初参加の大嶋さんは、「歩きやすい気候と苔の説明をしてくれて良かったです。」と感激していました。

スポーツ大会結果

◇西南ブロック球技大会
8月31日(日)に西南ブロック球技大会が開催されました。笹賀地区はバレーボールで優勝し、ブロック代表として11月2日に開催される市長杯争奪球技大会に出場することが決まりました。



熱戦の様子

また、雨天のため、軟式野球は中止となりましたが、取決めによりブロック代表として、笹賀地区が市長杯

◇笹賀地区親睦グラウンドゴルフ大会
9月7日(日)に開催を予定していましたが、雨天のため中止となりました。



- バレーボールの部
- 優勝 笹賀
- 準優勝 神林
- 第3位 今井

笹賀地区内の史跡案内板と標柱の紹介 (其)

〈笹賀地区歴史の会〉

二子郷せつしよう(下二子)

下二子公民館前

古来から下二子をせつしようと言いつつ習わしてきた。



二子郷せつしよう(下二子)

永徳三年(一三八三)、井川城に進出していた小笠原長基が次男長秀に惣領職分として安堵した荘園目録中に「信濃国二子郷折中分」の記載があり、この安堵された二子郷折中分が下二子であったことからせつちゅうの名が残った。

時代が下り、下二子が松本の漁場になったことも有り、せつちゅうがせつしようになり、字も殺生が当てられるようになったと考えられる。



新井溝(下二子)

新井溝(下二子)

下二子バス停の南、約30m

寛永十二年(一六三五)下二子が水不足で難儀し、松本藩に用水路開削を願い出た。翌々寛永一四年、時の領主松平直政の御用普請で小俣川より下二子まで集落の西方を六キロに亘り、飲用水として新井溝を開削した。